

SYMPOSIUM COMPUTATIONAL FLUID DYNAMICS FOR ARCHITECTURAL DESIGN EDUCATION

数値流体力学 建築環境教育への応用と課題

2014/5/28 wed. 15:00-18:30

日時	2014年5月28日[水] 15:00 - 18:30
会場	東京大学 本郷キャンパス 工学部一号館 15号講義室
内容	14:30 受付開始 15:00 開会挨拶 (東京大学 前真之 准教授) 15:05-17:05 大学・企業におけるCFD教育 現状と課題 東京理科大学工学部建築学科 教授 倉淵隆 東北大学 都市・建築学専攻 助教 大風翼 早稲田大学創造理工学部建築学科 教授 高口洋人 大阪工業大学建築学科 講師 河野良坪 東京大学建築学科 准教授 前真之 他 17:05-17:15 休憩 17:15-17:30 CFDソフトウェアメーカーの教育サポート (アドバンスドナレッジ研究所) 17:30-18:15 パネルディスカッション 18:15-18:30 総括と今後の活動について (東京大学 前真之 准教授) 18:30- 懇親会 (15号講義室前ホワイエ)
定員・参加費	定員100名 (先着順) 無料
申込・連絡先	電子メールにて、以下のアドレスに「CFDシンポジウム申込」のタイトルでご連絡ください。 info@maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp
協賛	アドバンスドナレッジ研究所

環境建築の設計において、空気・熱を連成してシミュレートする数値流体力学 (CFD) は、非常に強力なツールとして期待されています。しかしながら従来は計算機ハードウェアの制約のため膨大な解散時間を要し、ソフトウェアも高価。導入のハードルは極めて高く、使えたとしても何度も計算できる代物ではありませんでした。最近になって計算機ハードウェアの性能向上とソフトウェアの改善に伴い、個人用PCで短時間に何度も計算することが可能になり、また非定常解析による時刻変動の評価も可能となってきています。使い勝手が改善され習得のハードルも下がり、企業や大学などの実務・教育現場で導入が進んでいます。一方でCFDはビジュアル的に強い印象を与えるため誤解を招きやすく、その利用には慎重でなければなりません。「計算を回す」ことは容易になったものの、結果をどのように解釈するか、実際の環境建築設計にどう役立てていくか、正しい基礎知識をどのように習得していくか。教育カリキュラムを含めて十分に整備されているとはいえないのが現状です。

本シンポジウムは「環境建築設計のレベルアップ」と「建築環境分野の活性化」を目標に、現状でどのような教育が行われているのか、どんな課題があるのかについて、多くの方々に発表していただきます。続いて、どのようなCFD教育環境の整備への活動・協力が可能なのか、大学・企業はどのように連携できるのか、議論を深めたいと思います。皆様のふるってのご参加をお願い致します。

提案人 東京大学工学部建築学科 准教授 前真之